

トホクのダイコン栽培方法

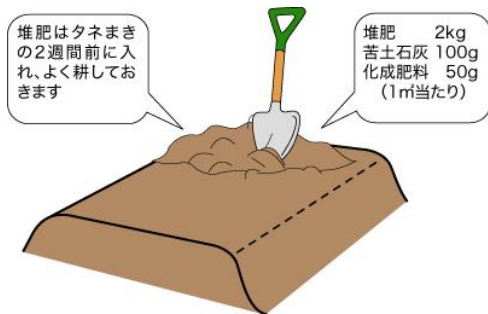
発芽適温：15～30℃ 生育適温：15～25℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；1～2年あける

1. 作物特性

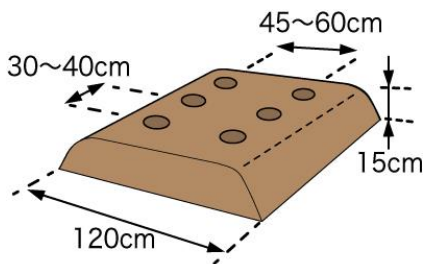
ダイコンは根が深く伸び肥大も著しいので、栽培する土の性質が生育や品質に大きく影響します。昔から「大根十耕」と言われるように、あらかじめ畑をよく耕しておくことがダイコン栽培には必要です。耕土が深くてやわらかく、保水力があり排水性のよい畑を準備することがポイントです。

2. タネまき

タネまきの2週間前には1㎡当たり堆肥2kgを入れ、よく耕しておきます。よく混ざってないと、「また根」の原因になります。また石などは取り除き、土のかたまりも細かく砕いておきます。



水はけを良くするためにうねの高さは15cmが適ですが、水はけの悪い畑では高うねにします。春まきではとう立ちを



防ぐために透明か黒色のマルチをします。また夏まきではウイルス病の予防も兼ねて銀色マルチをすると良いでしょう。タネは深さ約2cmのまき穴に、1ヶ所に数粒ずつまきます。

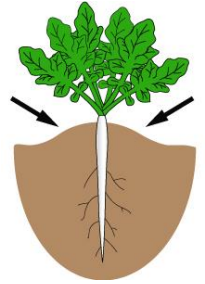
<春まき栽培の注意点>

ダイコンは低温を感じて「とう立ち」します。「とう立ち」すると根の肥大は止まり肉質も落ちます。とう立ちの心配が少ない春まき用品種を使い、タネをまく時期に合わせた保温資材を上手に活用して「とう立ち」を防止します。



3. 栽培管理

通常2～3日で発芽します。本葉が出たら間引きします。間引きは一度にやろうとせず2～3回に分けて、しっかりと株を残すように順次行います。最後の間引きの時に1㎡当たり化成肥料50gを施し、除草を兼ねて周囲の土とよく混ぜながら土寄せします。



秋栽培の場合は台風の時期と重なるので、苗が風で振り回されたり折れたりしないようしっかりと土寄せすることが大切です。ダイコンの秋まきではアブラムシの発生からウイルス病が発生します。防虫ネットをトンネル状にかけるとは害虫防除だけでなく、台風などの大雨や強風対策にも有効です。また大雨で肥料が流されると、順調に肥大



せず不味くなります。生育の様子を観察し、タイミングを計って追加の肥料や水やりをしましょう。

4. 収穫

秋まき栽培では、青首品種ではタネまきから約60日で、漬物品種では約70日で収穫となります。葉の付け根を束ねてつかみ、真直ぐ上に抜きます。

